

平成25年度横浜市市民活動支援センター自主事業の評価・検証について

時間	事業分野/事業名称等	団体名等
18:10 (3分)	○事業の検証の進行スケジュールについての説明【資料2-1】 (3分)	事務局説明 (半浦係長)
18:13 (16分)	○横浜市市民活動支援センター自主事業部門(補助事業:単年度) 「続・大人のインターンシップ事業～活動体験型インターンシップの継続 と多様な人材の受入手法の共有による団体の活性化」 ・平成25年度事業報告書【資料2-2】の説明(8分) ・質疑応答(8分)	特定非営利活動法人 アクションポート横浜
18:29 (16分)	○横浜市市民活動支援センター自主事業部門(補助事業:単年度) 「市民映像制作クルー育成事業」 ・平成25年度事業報告書【資料2-2】の説明(8分) ・質疑応答(8分)	特定非営利活動法人 P C - I T V
18:45 (25分)	○横浜市市民活動支援センター自主事業部門(補助事業:5か年度) 「協働型地域経営リーダー養成事業(よこはま地域づくり大学校)」 ・平成25年度事業報告書【資料2-2】の説明(10分) ・質疑応答(15分)	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

事業評価・検証スケジュール

開催時期 (予定)	委員会/部会 (注)	内容
平成26年 6月	委員会	○平成26年度 事業計画の説明(運営事業・自主事業) 事業実施団体から、事業計画について説明及び質疑応答
9月	委員会	○平成25年度 事業報告及び事業評価(自主事業) 自主事業について、事業実施団体から、事業報告の説明及び質疑応答 評価シートの作成 (※平成26年9月30日(火)までに事務局へご提出ください。)
10月	部会	○平成26年度事業の中間振り返り(運営事業・自主事業) 事業実施団体から事業経過について報告し、団体間及び部会委員と間での 意見交換等
11月	委員会	○平成26年度事業の中間振り返り結果の報告(運営事業・自主事業) 中間振り返り結果(意見交換内容、提案等)を事務局から報告
平成27年 3月	委員会	○平成26年度事業評価及び平成27年度事業実施継続についての審議 (運営事業・自主事業) 事業実施団体から、事業報告及び次年度の事業計画(案)の説明及び質疑 応答 ※委員会は事業評価報告書を作成。事業実施団体は、事業評価報告書の内 容を踏まえ、次年度の事業計画に適宜反映
4月～5月	部会	○事業評価報告書の確認 委員会が作成した平成26年度事業評価報告書について、事務局から報告

(第5号様式)

横浜市市民活動支援センター
自主事業報告書

(あて先) 横浜市長

平成26年4月30日

団体名	特定非営利活動法人アクションポート横浜
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町 25-1 上田ビル 501 号 株式会社地域計画研究所内
代表者 氏名	代表理事 昌子住江・斐安・岡部友

平成25年度横浜市市民活動支援センター自主事業について、次のとおり報告します。

事業名	続・大人のインターンシップ事業へ活動体験型インターンシップの継続と多様な人材の受入手法の共有による団体の活性化
事業運営	<p>横浜市市民活動支援センター事業を担う他団体との協力・連携 (横浜市市民活動支援センター事業を担う他団体(自主事業部門・運営事業部門)と相互に協力・連携が果たされたか。)</p> <p>・連絡会議への参加 自主事業運営団体・運営事業運営団体との定期的な会議に毎回参加し、情報交換及び意見交換を行った。今後は広報など事業運営に必要なテーマの勉強会を共に開催するなどして、自主事業運営団体としてより具体的に協力し合える体制を整えていくことが課題であった。</p>
	<p>予算(経費執行が適正であるとともに、経費節減の工夫がされたか。) 概ね予定通り執行できた。 無料の会場を確保できたので会場費の費用を押さえることができた</p>
	<p>事業内容(事業内容は市民活動のニーズを捉えたものか。)</p> <p>1. 受入ノウハウ共有座談会の実施 実際に多様な人材を受入れているNPOに事例を報告してもらい、そのノウハウや活動事例を共有する場を作った。</p> <p>2. 活動体験見学会の実施とフォローアップ 《大人》が参加しやすいプログラムをもつNPOの活動現場に伺い、活動体験を通じた参加者のマッチングを行った。また、参加者には受入団体の活動や受入れにあたっての企画、準備に関することについても説明を事前に行い、受入団体が今後も参加者の定着やコーディネートができるようにサポートを行った。</p> <p>3. 成果のとりまとめ 座談会と活動体験見学会の実施を通じて、活動の成果やノウハウの検証等も含めてとりまとめを行い、ホームページに発信をした。 http://actionport-yokohama.org/action1/center/otona/index.html</p>
事業内容	

事業計画

<p>事業計画（実施時期や方法が適切で、計画通りに実施されたか。）</p> <p>予定通り開催ができたが、活動時期が受入団体の繁忙期と重なってしまい、年明けの実施になってしまった部分は反省点である。</p> <p>○ボランティアの受入を考える座談会の開催 ボランティアの受入をしている NPO 職員の方を対象とした受入ノウハウ共有座談会を開催した。 日時：7月26日（金）18：30-21：00 場所：とつか区民活動センター 参加者：30名</p> <p>○活動体験見学会の実施 普段活動に関わる機会の少ない社会人や若者を対象に、体験型プログラムを実施した。特に「受け入れ」に着目し、より定着して活動を継続していけるよう座談会で得たノウハウを活かして、受入体験を実施。</p> <p>○小学校で子ども達と餅つき体験！ 参加者：20名 受入団体：NPO 法人教育支援協会 日時：1月18日（土）8:00-15:00 場所：川上小学校</p> <p>○中井町でマダケ間伐&竹林で BBQ 体験！ 参加者：10名 受入団体：日本の竹ファンクラブ 日時：2月1日（土）8:00-16:30 場所：神奈川県足柄郡中井町</p> <p>○乳幼児親子との交流イベント体験！ 参加者：6名 受入団体：NPO 法人びーのびーの 日時：2月22日（土）9:00 ～ 13:00 場所：びーのびーの事務局・企画室</p> <p>期待される効果（市民の満足度が高まり、具体的な効果があったか。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 受入座談会では実際に活動している団体の受入ノウハウやアイデアに加え、フレームワークを用いたボランティア受入の段階を整理して考える機会を提供し、参加者から「自団体の弱点がわかった」「アイデアを共有できてよかった」など、満足度も高く好評だった。 ・ 活動体験会ではやはり現場を見ることはとても大きく、参加者からは「横浜の魅力が感じられた」「もっと継続して関わってみたい」「運営の苦勞がわかった」などという声があり、多くの気づきがあった。また、第2回の体験で参加した企業人が NPO に興味をもち、今後会社との連携を検討しているので、今後期待したい。 ・ 今年は受入コーディネーターの育成に力を入れ、事前事後の振り返りやアンケート作成等、丁寧にフォローアップをした。受入座談会に加えて、実際の受入をすることでの気づきも多く、事後の反省会では多数の改善点が見つかった。PDCA サイクルをきちんと回すことができ、受入団体にとって多くの気づきや学びのある機会を作ることが出来た。
--

自己評価

- ・受入ノウハウ座談会で整理した内容を元に活動体験という実践の場を設け、フォローアップという流れとしたことで、受入団体からはPDCAサイクルを組み立てから段取りに沿ってきちんと実践できたと満足度が高く、効果的なプログラムを作ることができたと考えられる。
- ・活動体験では受入団体と連携し参加型の体験とすることで、参加者への共感を引き出し、活動の前後で参加者と小まめに連絡を取り合い丁寧なフォローアップをすることで参加者の声を取り入れ、受入団体側の気づきも多く作ることができるなど、満足度が高い活動とすることができた。
- ・活動体験については参加者側にとっても、受入団体側にとっても気づきや学びが多く、人材の定着という成果は得られたが、今年度実施したような1度の座学と、1団体につき1回の受け入れ体験を行う現状の仕組みでは、各団体の受け入れ体験の実施数を増やしていくには限界がある。今後はこうしたプログラムがより多く実施できるような仕組みを考えていきたい。
- ・こうした事業は一年だけでは成果が出ない。今年度の実践を通じて、受け入れ団体側や、参加者を送り出す側(企業など)からも、このような機会が引き続き期待されていることから、今後もぜひ、法人として継続していきたい。
- ・イベントとしては参加人数が少ないものもあったが、今回の事業主旨である受け入れ体験実践を試みるという点においては、むしろ参加者一人一人と受け入れ団体スタッフのコミュニケーションがよくはかれていたので、結果的に密度の高い活動体験会となった。
- ・「小学校で子ども達と餅つき体験！」では、先輩ボランティアのフォローアップがある中で新規ボランティアを受け入れることで、安心して次の活動へ再び参加しやすくなるような環境をつくることができた。
- ・「中井町でマダケ間伐&竹林でBBQ体験！」では、企業の社会貢献活動の一環として地域企業の社員の受け入れを行い、実際に作業を共にしてもらうことで言葉による説明以上の説得力で、高いコミットメントを得ることができ、参加者からは継続的に活動へ参加したいという声もあった。
- ・「乳幼児親子との交流イベント体験！」では、受け入れ可能人数に対して当日のボランティア参加人数が少なかったものの、今まで団体の活動に来たことの無い新規参加者層を対象とすることで、新たに広報や参加者との調整に必要なノウハウを工夫する機会となった。ここで見つかった課題を改善することで、さらに参加者を新規開拓していけることが期待される。

(第6号様式)

事業収支決算書

【収入】

(単位：円)

項目	金額	説明
横浜市市民活動支援センター事業補助金	750,000	
団体負担金	84,601	
合計	834,601	

【支出】

項目	金額	説明(使途、積算根拠等)
横浜市市民活動支援センター内 スペース使用料	50,600	@4,400円×11.5か月
人件費(事業責任者)	225,000	15,000×15人日
人件費(事業担当者)	260,000	13,000×20人日
交通費	32,640	
チラシ印刷費	52,620	一式
受け入れ団体謝金	90,000	30,000円×3団体
座談会講師謝金	40,000	20,000円×1人、10,000円×2人
消耗品費、通信費	80,281	一式
打合せ会場費	1,500	一式
イベント保険料	1,960	一式
合計	834,601	

この書類は、横浜市市民活動推進条例第12条第4項の規定に基づき、一般の閲覧に供しなればなりません。

ボランティアの

受入を考える！

日時：7月26日（金）

18:30-21:00



もっと

ボランティアが活躍できる団体へ

報告と事例から受入を考えます！

会場

とつか区民活動センター

定員

30人

申込

1)名前、2)所属団体 3)連絡先 をご記入の上、
裏面の連絡先までご連絡ください

主催：NPO法人アクションポート横浜 協力：とつか区民活動センター

*この事業は横浜市市民活動支援センター自主事業の一環で実施しています。

NPOの活動をより発展させていくためには多様な人材が参加でき、活躍するためのコーディネートが不可欠です。この講座では、ボランティアの受入のためのポイントや実際に活動している団体の方の事例を聞きながら、受入のノウハウについて共有し、考える機会にしたいと思います。

多様な人材を巻き込み、さらに活動を広げて行きたい方のご参加をお待ちしております！

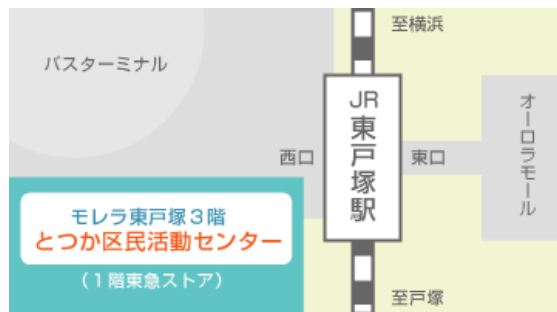
■プログラム

日時:7月26日(金)

18:30-21:00

会場:とつか区民活動センター

(JR横須賀線 東戸塚駅より徒歩1分)



第一部 定着のポイント

「社会人ボランティア調査」から見えた受入のポイントについてお話をさせていただきます。

講師:NPO法人コミュニケーション支援機構 <http://www.a-conweb.net/>

第二部 事例報告

実際に横浜で活動している団体の方から受入の工夫点や姿勢についてお話を伺います。

事例報告:NPO法人アークシップ <http://www.arcship.jp/>

NPO法人地球民ACTかながわ <http://www.tpak.org/>

第三部 意見交換ワーク

参加者の皆さん同士で今後どのようにボランティア受入を行って行くか、議論をしながら今後のアクションを考えていきます。

■申込・お問い合わせ先



特定非営利活動法人

アクションポート横浜

アクションポート

検索

〒231-0062 横浜市中区山下町25-1 TEL&FAX:045-662-4395

メール: info@actionport-yokohama.org

ホームページ: <http://actionport-yokohama.org/>

(第5号様式)

横浜市市民活動支援センター
自主事業報告書

(あて先) 横浜市長

平成26年 3月31日

団体名	特定非営利活動法人 PC-ITV
所在地	〒231-0011 横浜市中区太田町 5-67 第一須賀ビル 5F 横浜プロッサムスタジオ内
代表者 氏名	理事長 中井智治

平成25年度横浜市市民活動支援センター自主事業について、次のとおり報告します。

提案事業名	市民映像制作クルー育成事業
事業運営	横浜市市民活動支援センター事業を担う他団体との協力・連携 (横浜市市民活動支援センター事業を担う他団体(自主事業部門・運営事業部門)と相互に協力・連携が果たされたか。) 横浜市・市民活動支援センターとの協働事業としては、私たちができないパンフレット3000部の配布、動画フォトフレームの設置紹介スペースの提供、CM制作協力する市民活動団体の紹介、活動内容の助言指導などがあり、協働事業者として関わって頂いたことで事業を達成することができたと考えます。特に、横浜シティーガイド協会副理事長の紹介して頂いたことにより、参加クルーがコーディネータの役割について直接学ぶことができ、本事業の目的を学ぶ場として大変参考になりました。
	予算(経費執行が適正であるとともに、経費節減の工夫がされたか。) 本事業を実施するにあたり、市民活動支援課と必要の都度ご相談しながら進めさせて頂く方法で実施しました。 経費節減の工夫については、 (人権費) 活動簿を作成し、人権費の支払い管理を明確にしました。 (機材費) ワークショップで使用するビデオカメラなどの高価な撮影機材は、専従者の私機材を借りるなどして極力支出を抑制しました。 (ワークショップ) 使用した編集ソフトなどは、メーカーから一ヶ月無料使用できるCDを提供して頂き、支出をできるだけ押さえました。 (施設利用) PC-ITV スタジオ、公的スタジオ、自マンションのスタジオなど、できるかぎり安価な施設を利用しました。

事業計画	<p>事業内容（事業内容は市民活動のニーズを捉えたものか。）</p> <p>本事業は、映像制作を通して撮影クルーを育成することで、幅広い世代からコーディネートできる人材を発掘・育成し、参加クルーが、映像制作の強み生かして様々な団体の広報支援クルーとして繋がり、市民活動の活性化を図ることを目的として提案実施しました。結果は、グループ参加；12組（40～60人）、個人参加14人、制作成果CM27本あり、内参加クルー4組は次年度以降もPC-ITVのネットワーク局として継続実施することになりました。</p> <p>映像制作クルーは、自分の役割が明確でありながら、他クルーと協力しなければ映像作品という成果を得ることができません。全ての市民活動においてもメンバーと協力し、思いやる心が基本で同じなのですが、映像制作という成果を短期間に実感できるので、私たちが提案する活動は、幅広い世代からコーディネートできる人材を発掘・育成する役割としてニーズを捉えていると思います。</p>
	<p>事業計画（実施時期や方法が適切で、計画通りに実施されたか。）</p> <p>当初の提案ではCMコンテストを中心に活動を進める計画でしたが、本事業の実施条件として、CMコンテストをメインとして募集しないこと、ワークショップを中心とした活動とすること、他団体との交流を支援すること、などが付加条件となりましたので、①CMコンテストは、参加者の中でPC-ITVが実施する。②参加希望者が何時でも参加できるように、参加者毎に説明会を随時行う。③動画制作を体験する動画制作番組を随時実施し、WS（ワークショップ）に参加したい参加者が見学、体験しながらWSを実施する。という内容に変更致しました。</p> <p>実施は、市民活動支援課と相談し進める方法とし、参加希望者を随時受け入れる計画に変更して実施しましたので、ほぼ計画通りに実施致しました。</p>
	<p>期待される効果（市民の満足度が高まり、具体的な効果があったか。）</p> <p>（1）参加クルーの活動支援</p> <p>病気が原因で会社を退職した市民が参加し、編集技術、PC操作の学習を支援した。市民活動団体に声を掛けCM制作提案を行うことができるようになり、ステップアップのCM制作編集を担当し、作品として仕上げた。結果、クルーとのコミュニケーションができるようになり、コーディネータとしての考え方が、後に就職することに繋がった。</p> <p>（2）企画調整力の支援</p> <p>就職活動中の市民が映像制作に興味があり参加。特技としてハーモニカコンテストで金賞受賞した経験があり、コーディネータとしての活動を目指す。WS番組（MOY）にゲスト出演し、自分でも退職した仲間に声かけを行い、CD制作に取り組んだ。ネットワーク局としての活動目的を明確にし、ハーモニカ教室の企画CMの制作に取り組み、アーティストとしての活動を本格化したい意思が確認できるようになった。その後、アイリッシュ音楽愛好者に声かけを行い、イベント企画CMに取り組む、コーディネータとしての役割を担った。</p> <p>（3）市民活動実績のある市民が活動を支援</p> <p>コーディネータとして活動している市民が参加し、CM制作のWSにおいてもコーディネートして助言活動を行った。多くの団体を紹介する活動を目指した。</p>

(4) CREW 間の支援協力

他 CREW や関係者の CM を企画することで、相互の活動を理解し撮影協力などの体制ができた。PC-ITV のネットワーク局としての市民活動への参加となり、地域活動への体制ができた。

(5) 横浜の文化に関する人との交流

JAZZ をテーマにした活動 CM を目指して参加。自番組として 5 回の動画を企画した。自分の関係したライブハウスの取材や Post-CREW 紹介のライブハウスに連絡し、積極的に動画制作を体験した。ライブハウスとの調整、出演者と調整、CM 企画の作成提案など、横浜文化を紹介するコーディネータとしての役割を担った。食育とヨガをテーマに市民団体と協働 CM 制作を企画をまとめた。

(6) 障害者支援

障害を抱える障害者を支援する団体を紹介することを目的として参加。みかた TV を担当し、動画制作を体験した。支援団体の CM 制作の提案を受け入れる団体は少ない状況だったが、MOY の番組制作と協力して自立支援の NPO 団体を取材し、動画 CM の制作を通して今後の活動交流ができる関係ができた。東北支援活動に参加 Project-CREW として参加していた市民が、東北岩手県の造り酒屋 CM 制作を企画し、東北応援 kaze-CREW、みかた TV、project-CREW が協力して CM 制作した。今後は、東北支援 CM 制作を通してメッセージを送るコーディネータとしての活動が期待でき、活動支援することを決意した。

(7) 地域イベント CM を制作

Post-CREW と project-CREW が協力してみなとみらい秋まつりの CM を制作し、自治会メーリングリストで参加を呼びかける等の募集活動ツールとして利用した。

(8) CM コンテスト最優秀賞

3 月 18 日 CM コンテスト最優秀賞を発表しました。団体参加のピアハートコミュニケーション (PHC) と個人参加の O さんに決まりました。

PHC のみなさんは、参加者の思いを一つに纏め、活動の様子を CM 映像として楽しく表現したこと。個人参加の O さんは、積極的にワークショップに参加し、PHC の CM 構成を纏めたことが評価されました。



自己評価

(1) 苦慮したこと

参加者の募集では、コーディネータ育成が事業目的であるという説明が大変難しく、映像制作クルー育成がどのようにコーディネータ育成に関係するのか説明するのに大変苦慮しましたが、体験番組を毎週実施し、見学参加募集から始めたことで気軽に参加できるようになりました。

ワークショップでは、編集を希望する参加者が少なく、私たちが補う活動ケースが多くあり苦慮しましたが、編集を学習した個人参加クルーは就職活動ができたことや、グループで参加したクルー単位でネットワーク局の番組動画を制作編集できるようになりました。

(2) 成果について

今回提案した自主事業の目的は、コーディネーターの役割を撮影クルーを体験して学ぶ提案でしたが、参加者がコーディネーターの役割をどのように理解するか課題でした。しかし、病気で社会復帰に悩んでいた市民が社会復帰できたこと。自立的にアーティスト活動ができなかった市民が、CDの自主制作、イベント提案など積極的な活動を開始したこと。東北支援への活動としてCM制作を呼びかけて造り酒屋のCMを完成させ、今後も支援活動を続ける意思を持ったこと。クルー間で協力調整してCM制作を行ったこと、地域イベントCMを制作し広報活動を支援したこと、横浜のJAZZ文化を伝える市民活動を開始したこと、PC-ITVのネットワーク局として地域情報を発信する市民活動に参加すること、等々の成果は市民活動に参加するコーディネーターの発掘・育成ができたと考えます。

(3) 横浜市・市民活動支援センターとの協働事業について

横浜市・市民活動支援センターとの協働事業としては、私たちができないパンフレット3000部の配布、動画フォトフレームの設置紹介スペースの提供、CM制作協力する市民活動団体の紹介、活動内容の助言指導などがあり、協働事業者として関わって頂いたことで事業を達成することができたと考えます。

(4) 今後の活動について

今回の活動を通して感じたことは、参加した方々の映像への想いでした。映像を芸術と考えた参加者、PRツールと考えた参加者、インターネットCMに興味がある参加者、アーティストデビューとして考えている参加者、映像を学ぶための参加者、インターネットTVを制作したい参加者、等々多くの想いでした。

今回参加したクルーがそれぞれの想いを実現できるか不明ですが、日本文化芸術機構に研究生として参加したクルーから平成26年度JAPAN INSTITUTE クライムフリー事業の紹介があり、映像制作支援で参加協力することになりました。また、個人参加クルーや企業から名刺に代わる動画制作の提案があり、PC-ITV 平成26年度の事業としてビデオ名刺や動画名刺などの企画事業を検討することになりました。参加クルーから私たちが他団体の事業紹介を受けたこと、市民活動としての協働事業の提案を頂いたことは、参加クルーがコーディネーターの役割を実践したことであり、私たち団体が次年度以降の活動に繋がる大きな成果となりました。

市民映像制作クルー育成事業については、平成26年度においてもPC-ITVの事

	<p>業としてワークショップ型インターネット TV 番組の制作や参加クルーによる PC-ITV ネットワーク局として支援します。また、新たな企画（参加クルーの発案）として、動画をパンフレット・ポスター・名刺などと連携できる” 動画 de 名刺” を提案し、多くの市民団体と連携できる仕組みでコーディネーター育成に貢献したいと思います。</p>
--	---

(第6号様式)

事業収支決算書

【収入】

(単位：円)

項目	金額	説明
横浜市市民活動支援センター事業補助金	750,000	
団体負担(会費・寄附等)	109,987	
参加費・資料代等	50,000	12団体×3,000円+14個人×1,000円
合計	909,987	

【支出】

項目	金額	説明(使途、積算根拠等)
賃借料		
市民活動支援センター内	50,600	平成25年4月～平成26年3月
教育用機材(ビデオカメラ他)	48,000	
施設等使用料	12,650	
人件費		
専従者(交通・昼食補助)	276,000	1回/日 1,000円/人
非専従者(交通・昼食補助)	95,000	1回/日 1,000円/人
謝金	54,000	シティーガイド協会/審査員
通信費		
携帯電話使用補助	36,000	
切手・レターパック他	16,000	
交通費		
市内移動等交通費	37,598	
印刷費	81,410	
消耗品	202,729	
合計	909,987	

*補助金交付の対象である事業の収支決算を記入してください。

(第5号様式)

横浜市市民活動支援センター
自主事業報告書

(あて先) 横浜市長

平成26年4月30日

団体名	特定非営利活動法人市民セクターよこはま
所在地	〒231-0011 横浜市中区太田町4-49 NGS横濱馬車道802号
代表者 氏名	理事長 中野しずよ

平成25年度横浜市市民活動支援センター自主事業について、次のとおり報告します。

提案事業名	協働型地域経営リーダー養成事業 (よこはま地域づくり大学校)
事業運営	<p>横浜市市民活動支援センター事業を担う他団体との協力・連携 (横浜市市民活動支援センター事業を担う他団体(自主事業部門・運営事業部門)と相互に協力・連携が果たされたか。)</p> <p>■管理運営団体との連携・協力 当団体が管理運営部門を担っているため、協力・連携をスムーズに行うことができました。事業に関する意見交換、会場・備品利用、広報、事務スペース提供などにおいて協力・連携を行いました。</p> <p>■自主事業実施団体との連携・協力 25年度自主事業団体NPO法人アクションポートと、昨年度に続き、定期的に連絡交流会(4回実施)を行いました。こうした場で事業報告・意見交換を行い、課題やアイデアについて出しあうことができました。 具体的な協力については、昨年に引き続き、よこはま地域づくり大学校の講師(基礎コース・応用コース)をNPO法人アクションポート横浜の理事をつとめる内海氏にお願いすることができました。</p>

予算（経費執行が適正であるとともに、経費節減の工夫がされたか。）

＜基礎コース＞

基礎コースは少人数での見学が有効であると第2期の講座を通じて分かったため、カリキュラムは昨年と同様に定員を30名とし、時間は昼開催にすることで、実際に地域で活動されている方に受講して頂けました。29名の応募があり、24名の方が7割以上の出席で修了しました。

＜応用コース＞

応用コースは、受講生が6名で見込みを下回りましたが、きめ細やかな対応ができ、また受講生同士で仲間感が醸成され、学び合いがじっくりとできたりするなど、少人数ならではの効果がありました。受講生は熱心に取り組み、全員修了しました。

経費節減については、応用コースで、これまでの蓄積などから事務局や内部スタッフで実施できる回は外部講師に依頼せず、講師謝金を削減しました。

また昨年度同様、応用コース卒業生にサポーターとして企画・運営に関わっていただき、実務においても、会場設営、受付、グループワークのリードなども行っていただいたことで、人件費の抑制を図ることができました。実務面では、当法人インターンも継続的に関わりました。



事業内容（事業内容は市民活動のニーズを捉えたものか。）

■取組み全体で得られた知恵を広げる

◇ブックレットの発行

これまでの講座から、地域づくりのエッセンスを抽出したブックレット「地域づくりの知恵袋」を企画、制作、発行しました。企画・制作は、応用コース卒業生をプロジェクトリーダーに、講師を務めていただいた地域活動のリーダーの方にも関わっていただきました。またブックレットは受講生のみならず、地域活動実践者やその支援者が活用できるよう意識して作成しました。

・市民局を通じて、各区役所の地区担当の役職員および地域力推進担当に提供することができました。

・横浜市内全地域ケアプラザや各区社会福祉協議会、各区の市民活動支援センターに提供しました。

・全国の主要な市民活動支援センターやまちづくりに取り組む中間支援組織に提供しました。送った直後から追加希望や講演依頼があるなど反響に手応えを感じています。

◇つながりのまちづくりフォーラム2014での事例発表

横浜市市民活動支援センター事業である上記フォーラムにて、地域大応用編の卒業生および担当者が登壇し、取り組みの意義を発信することができました。

◇各区役所地域力推進担当職員研修で地域大の取り組みを講演

地域大の区域での開催も広がる中、市民局地域活動推進課との連携で職員研修で取り組みを紹介しました。このことにより2014年度さらに開催区が拡がりました。

事業計画

■現場体験の実施など現場性を重視

<基礎コース>

カリキュラム後半（テーマ編）で、全員での現地見学会2回に加えて、選択制による2回の合計4回の現地見学で、地域の環境を肌で感じながら、地域づくりのポイントを学びました。

現地見学会後は、地域活動実践者から実践的なアドバイスや、情報提供を受け、学びの成果をまとめました。受講生同士が現地見学会で感じた事を共有し、共に学び合い・教え合う中で、様々な人の考え方に触れて、多角的に地域を見る目を養いました。

<応用コース>

カリキュラムの前半は、「受講生の住むまち相互訪問」と題して、講師・サポーターとともに各受講生の居住地域を訪問し、地域を見る目を養いました。自分の住む地域を紹介するにあたって、地域のことを調べたりし、地域のことを知る機会ともなり、また他の受講生から客観的な意見をもらうこともできました。

カリキュラム後半のフィールドワークでは、防災、地域のサロンによる交流・コミュニティづくり、農に関係するサロンをキーワードに、南区六ッ川地区と鶴見区東寺尾地区の2か所を訪問・調査しました。受講生は、グループで調査内容を討論して、フィールドワークの日程、調査項目を決め、実地調査ではまち歩きとヒアリングを行い、調査内容や考察、調査結果の活用の仕方などを報告としてまとめ、各自発表しました。

■仲間づくり、実践サポート

- ・受講生・卒業生の名簿を作成し、希望者に配布しています。

名簿を活用して、同じ区に住む受講生を見つけ、自分のサロンやイベントへの参加を促したり、地域大の区域開催を呼びかけたりする人もいました。

- ・学び合いの仲間意識で、卒業生による運営サポートが行われています。

前述の通り、卒業生がサポーターとしてグループワークやフィールドワークに入り、建設的な意見や現場に即したアドバイス、適切な情報を提供しました。サポーターは地域活動実践者であるので、グループワークや講義以外の場面でも、受講生がサポーターから直接、現場に即したアドバイスを受けることができました。企画についても、事務局とともに、受講生の視点で役立つ内容・方法を考え、実施しました。

また応用コースのフィールドワーク先の一つに卒業生の活動地域を選んだため、その卒業生がフィールドワークのコーディネートや案内を担いました。地域大の趣旨を汲んで受け入れ先の人選や事前説明などを行っていただき、効果的に学ぶことができました。

- ・卒業後も、仲間として学び合っているケースが複数みられます。

卒業生の中には、卒業後数人程度で自主的に集まっているグループもあり、情報交換などがされています。「同じ志の仲間なので、話しやすい」「違う地域の情報が得られるのが良い」など、卒業後も学び合いの場が継続されているようです。

地域でのイベント・研修の案内を送ってくれ、受講生に参加を呼びかける卒

業生もいました。

自分の地域活動について、地域大でつながりを持ったフィールドワーク先や講師に卒業後もアドバイスを受けている人もいます。

■最新情報の提供

最新の地域づくりの事例が紹介される「つながりのまちづくりフォーラム2014」（横浜市市民活動支援センター事業）について卒業生や受講生に周知したところ、15名の参加がありました。

事業計画（実施時期や方法が適切で、計画通りに実施されたか。）

■広報と受講生の決定

基礎コースは定員30名のところに29名の応募がありました。応用コース受講者は、6人でした。

■講義の実施

<基礎コース>

入学式・卒業式を含めて、講座を11回実施しました。

カリキュラムの前半「概論編」では、「卒業生による発表」「横浜における地域まちづくりの変遷と現在」など4回の講義を行いました。横浜で活動している地域の実践者やまちづくりコンサルタントの方を講師に招き、実際の経験を踏まえた講義を聴くことにより、まちづくりを取り巻く環境や課題解決の知恵を学ぶ機会としました。

「テーマ編」では、「地域の安心・安全」「地域の交流」「地域の子ども」「地域の見守り合い」の4つのテーマに分かれて、現地見学とまとめの2回を1シリーズとして、3シリーズ実施しました。各回とも、現地見学先の地域活動実践者が同席。現地見学会では、地域を体感し、リーダーだけでなく、一緒に活動している人たちや施設やサービスの「利用者」の方とも直接話す機会を持つことができました。まとめの回は、まちづくりコンサルタントをスーパーバイザーに交え、実践的なアドバイスや情報提供を受けながら、学びの成果を共有し、地域づくりのポイントを学び合いました。

<応用コース>

開講式・卒業式を含めて11回の集合研修と、まち歩き4回（6か所）およびフィールドワーク2回を実施しました。

■「学びのまとめ」の回収・分析・改善

基礎コースでは、今年度も「学びのまとめ」を毎回提出してもらいました。これに加えて、現地見学の回にはレポートもあり、負担が大きかったようで、例年に比べると提出率が低くなりました。

ただし、受講生の学習状況を把握し、講義に関する意見などを出していただく機会として、「学びのまとめ」は有効とされますので、来年度の区域展開でも継続したいと考えています。

■DVDの制作・販売

昨年度と同様、欠席者のために、また受講者以外の地域の活動者に講義内容を共有してもらうため、基礎コースの講義を録画したDVDを制作しました。しかし、今年度はテーマ編が現地見学やグループワークが中心で、DVDによるフォローが適さなかったこともあり、受講生への販売実績は2件のみでした。

■ホームページの開設・運営

ブログ形式で、講義の振り返り、記録、次回の連絡・案内を目的としたホームページを運営。今年度は、11回更新し、講義の概要を伝えるツールとして機能しました。来年度は、次回の講座の連絡にも活用していきたいと考えています。

■ブックレットの発行

前述の通り、これまでの講座から地域づくりのエッセンスを抽出したブックレット「地域づくりの知恵袋」を企画、制作しました。2014年3月に発行し、今後地域大内外で、地域づくりのための参考書として活用を図っていききたいと考えています。

■区域開催

本年度は、泉区、港北区、港南区、西区で、それぞれ「泉区まちづくりみらい塾」「こうほく絆塾」「西区地域づくり大学校」「港南区学び舎ひまわり」を実施しました。

区域での開催は、地域の実情に沿った内容となり、区の歴史や実態を知ること、区内の取り組みを知ることができました。またその後の人脈を築く上でも、受講生が近い地域から来ていたり、講師が区内の活動者であったりしたことで、身近な地域に「仲間」や「頼れる相談相手」をつくることができ、効果的だった様子が見受けられました。

期待される効果（市民の満足度が高まり、具体的な効果があったか。）

■現場に即した学びあい

基礎コースは、興味のあるテーマを自分で選択し学ぶカリキュラムとなっているため、テーマ別グループでは、目的・問題意識が似ている方が多く、ワークの時間や休憩時間も、お互いの地域の現状について受講生同士意見交換をしていました。そして今回は現地コーディネーターの方には「現地見学」「まとめ」の2回連続でお付き合い頂き、プロジェクトの立上げノウハウから苦労話まで余すことなくお話して頂きました。受講生も個別で相談したり、同じ区の方同士で講義後に集まったりと、自主的な学びの場となりました。

「いつかやるぞ！夢プラン」の企画づくりでは、現地コーディネーターのアドバイスを自分の地域に置き換え、地域づくりのプランについて発表しました。

応用コースは、ほとんどの受講生が地域活動実践者であり、グループワークかつフィールドワークのカリキュラムの中で、現場に即した情報や意見の交換がなされ、より深い学びやつながりづくりに大きく寄与していました。

■自ら解決に取り組む、まちづくりの人材の輩出

	<p>基礎コースは、自治の力をつけている地域づくり先進地域に現地見学に行くことで、「地域でこれだけのことができる」という認識を共有することができました。また最終講では、「夢プラン」と題して、自分が選んだテーマに沿った活動について、自分の計画を立てました。計画を立案してみることで、活動の実現の可能性が高められたようでした。</p> <p>応用コースでは、地域で課題解決の為の行動をおこす具体的なイメージを持つことを到達目標としました。最終講では全員が、今回のフィールドワークを通じて学んだことを自分の活動にどう活かすかを発表しました。具体的な行動についての言及が多く、中には、この5月からフィールドワーク先と連携して、自分のプロジェクトを実行する受講生や、講師によるバックアップもあって、農政事務所や区と市民農園の開設に向けて準備を進めている人もいます。</p>
<p>自己評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎コースでは、前半の概論編にてまちづくりを取り巻く環境や課題解決の知恵を学ぶ機会を設けていた事により、自分の地域を今一度見直し、適切なテーマ選択ができた、「学びのまとめ」や受講生の声から読み取る事ができました。テーマ編では少人数でのグループで現地見学とまとめを行うため、受講生同士のコミュニケーションが活発になり、講座終了後に集まって勉強会などを行う受講生もいました。 ・応用コースでは、調査の立案から調整、実施、まとめの一連の流れを体験したので、自分の活動現場で調査を実践できるスキルとマインドを習得することができたと思われます。また検討や意見交換の時間を十分にとり、少人数であったことを活かしてじっくりと仲間意識の醸成を心がけたことが功を奏し、カリキュラムの終盤には、良い「学び合いの場」が形成されていました。

(第6号様式)

事業収支決算書

【収入】

(単位：円)

項目	金額	説明
横浜市市民活動支援センター事業補助金	2,000,000	
団体負担(会費・寄附等)	902,544	
参加費・資料代等	520,000	【基礎コース】 個人：15,000円×20人=300,000円 団体：10,000円×9人=90,000円 視察費：10,000円 【応用コース】 20,000円×6人=120,000円
DVD販売費	1,000	500円×2人=1,000円
合計	3,423,544	

【支出】

項目	金額	説明(使途、積算根拠等)
人件費	1,908,800	職員A 5,280,000円×0.06=316,800 職員B 5,040,000円×0.05=252,000 職員C 3,600,000円×0.1=360,000 職員D 1,400,000円×0.7=980,000
講師謝礼金	640,368	■講師謝金 共通科目 講師A 111,370円 (基礎コース1回、応用コース3回) 講師B 145,895円 (基礎コース2回、応用コース5回、卒業式) 【応用コース】 ・講師 11,137円×1人=11,137円 ・フィールドワーク受入れ先=13,364円 【基礎コース】 ・サポーター=162,600円(11,137円×1人、 24,501円×1人、126,962円 ×1人) ・コーディネーター=156,820円(75,000円 ×1団体、16,705円×4 団体、15,000円×1団体) ■プロジェクトメンバー謝金 4,000円×2人+21,159×1人=29,159円 ■ブックレット謝金 3,341円×3人=10,023円
旅費交通費	65,380	

消耗品費	11,085	書籍代：4,675 円 記録用フラッシュメモリ：2,360 円 インクトナー代=2,550 円、封筒代=200 円、 修了式紙代=1,300 円
通信費	63,825	回線使用料=22,398 円、郵送費=41,427 円
印刷製本費	624,830	パンフレット印刷代：94,500 円 ブックレットデザイン費：197,800 円 ブックレット印刷費：261,800 円 資料印刷費：70,730 円 (45,610 円(支援 C) + 25,000 円 (法人) +コ ピー代 120 円)
事務所家賃	30,250	2,750×11 カ月=30,250 (光熱水費含む)
手数料	4,930	講師謝金振込手数料等
イベント費	44,376	会場費：4,000 円 講師お茶・弁当代：6,876 円 茶菓子・手土産代：7,885 円 入学式お花代：1,600 円 卒業式関連：21,015 円 (卒業記念品=11,865 円、卒業式花 束代=3,150 円、パーティー参加 費=6,000 円) 研修会費：3,000 円
雑費	29,700	税理士・労務士業務委託費按分 ほか
合 計	3,423,544	

* 補助金交付の対象である事業の収支決算を記入してください。

横浜市市民活動支援センター事業評価シート（自主事業部門）

【(特非) アクションポート横浜：続・大人のインターンシップ事業～活動体験型インターンシップの継続と多様な人材の受入手法の共有による団体の活性化】

評価項目	評価の着目点	説明	特記事項	
			評価できる点	改善が望まれる点
事業運営	横浜市市民活動支援センター事業を担う他の団体との協力・連携	横浜市市民活動支援センター事業を担う他の団体（自主事業部門・運営事業部門）と相互に協力・連携が果たされたか。		
	予算	経費執行が適正であるとともに、経費節減の工夫がなされたか。		
事業計画	事業内容	事業内容は市民活動のニーズを捉えたものであったか。		
	事業計画	実施時期や方法が適切で、計画通りに実施されたか。		
	期待される効果	市民の満足度が高まり、具体的な効果があったか。		
総評	※いずれかにレ点	<input type="checkbox"/> 当初計画を上回る事業効果があった <input type="checkbox"/> 当初計画どおりの事業効果があった <input type="checkbox"/> 当初計画で期待されたほどの事業効果がなかった		

横浜市市民活動支援センター事業評価シート（自主事業部門）

【特定非営利活動法人PC-ITV：市民映像制作クルー育成事業】

評価項目	評価の着目点	説明	特記事項	
			評価できる点	改善が望まれる点
事業運営	横浜市市民活動支援センター事業を担う他の団体との協力・連携	横浜市市民活動支援センター事業を担う他の団体（自主事業部門・運営事業部門）と相互に協力・連携が果たされたか。		
	予算	経費執行が適正であるとともに、経費節減の工夫がなされたか。		
事業計画	事業内容	事業内容は市民活動のニーズを捉えたものであったか。		
	事業計画	実施時期や方法が適切で、計画通りに実施されたか。		
	期待される効果	市民の満足度が高まり、具体的な効果があったか。		
総評 ※いずれかにレ点		<input type="checkbox"/> 当初計画を上回る事業効果があった <input type="checkbox"/> 当初計画どおりの事業効果があった <input type="checkbox"/> 当初計画で期待されたほどの事業効果がなかった		

横浜市市民活動支援センター事業評価シート（自主事業部門）

【(特非)市民セクターよこはま:協働型地域経営リーダー養成事業(よこはま地域づくり大学校)】

評価項目	評価の着目点	説明	特記事項	
			評価できる点	改善が望まれる点
事業運営	横浜市市民活動支援センター事業を担う他の団体との協力・連携	横浜市市民活動支援センター事業を担う他の団体（自主事業部門・運営事業部門）と相互に協力・連携が果たされたか。		
	予算	経費執行が適正であるとともに、経費節減の工夫がなされたか。		
事業計画	事業内容	事業内容は市民活動のニーズを捉えたものであったか。		
	事業計画	実施時期や方法が適切で、計画通りに実施されたか。		
	期待される効果	市民の満足度が高まり、具体的な効果があったか。		
総評 ※いずれかにレ点		<input type="checkbox"/> 当初計画を上回る事業効果があった <input type="checkbox"/> 当初計画どおりの事業効果があった <input type="checkbox"/> 当初計画で期待されたほどの事業効果がなかった		